

令和6年度 真庭市立河内小学校 学校評価(自己・学校関係者)評価書

学校長 山田 史子 学校関係者評価委員 妹尾 久義 妹尾 宗夫 梶清 哲夫 谷口 仁志 河本 茂之 海原 明 松岡 祥和 三村 公一 妹尾 活明 藤井 裕子 松浦 浩澄 立石 樹	【自己評価総合所見】 本校の児童は、明るく素直で何事にも一生懸命取り組み、落ち着いたある学習態度や生活態度が定着している。また、協力しながら学習や行事に取り組むことができる。課題のある児童に対しては丁寧に寄り添い、支援と指導をすることで発達を支えている。学校に対しての保護者アンケートでは、肯定的評価を多くの項目でいただいている。学校教育目標の実現に向けて取り組んでいる成果でもあり、そのことが保護者にも伝わっている結果であると捉え、今後の教育活動の充実のために参考にしていきたい。 新しい学力観への転換を意識した教育課程になるように、校内研修を通して実践力につなげる努力を行っている。授業改善のポイントは、「主体的・対話的で深い学び」について研究し、授業で話し合う場面を設定することで、協働的な学びが進む授業づくりの研究を深めてきた。コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進することで「社会に開かれた教育課程」を実現できるように、地域の人や資源を活かした総合的な学習の時間になるようにカリキュラムを見直した。教職員の働き方改革にも取り組みながら、学校課題を改善するための工夫と改善を図りたい。
--	---

評価領域	自 己 評 価					学校関係者評価	
	評価項目	評価指標	評価基準	評価 (自己)	結果の分析及び改善方策等	評価 (関係者)	自己評価に対する意見等
自ら学び考える児童の育成	学力の定着	①学力状況調査の平均正答率(国と県との比較) ②教職員の分析 ※学校目標:「自ら学び考える児童の育成」の項目の「主体的・対話的で深い学び」のある授業作り	80%以上: 4 60%以上: 3 40%以上: 2 40%未満: 1	3	①県・国との差 ・3年県調査 国語(－7. 9) 算数(－3. 4) ・4年県調査 国語(+3. 6) 算数(－1. 3) ・5年県調査 国語(－1. 5) 算数(+5. 1) ・6年全国調査 国語(+1. 3) 算数(－6. 4) ②教職員の分析と取り組み 高学年では児童が自己採点の後、解きなおしを行って自己の課題を意識し、その後のつまづき解消に取り組んだ。【主体的な学び事業の活用】	A	年間数回の授業参観から、児童が元気に活動している様子を見て評価していただいた。 児童アンケートを通して、実態をつかみ、そのことの改善に繋げている指導姿勢を認めていただいた。 中学校に向けて、分からないことがあるなら、そのままにせず、分かるようになるように指導してほしい。 読書に関する取組の工夫や改善を図り、親子読書時間については、課題ととらえて引き続き働きかけを行う。
	主体的で対話的で深い学び	①児童アンケート(7月・12月) ・自分の考えが伝わるように、発表をする。 ・学校や家庭で読書をする。 ②教職員分析 ※対話のある授業により、協働的に学ぶ児童の育成	80%以上: 4 60%以上: 3 40%以上: 2 40%未満: 1	4	①児童アンケートより ・「学級の友だちとの間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできている。」 ＜話し合い活動の参加意識調査＞ 学級の友だちとの間での話し合い活動に参加した。(参加意識) 肯定的回答98. 5% 話し合い活動を通して、考えを広げることができた。 肯定的回答96. 9% 話し合い活動を通して、考えを深めることができた。 肯定的回答93. 8% ・「学校や家庭で読書をする」 肯定的回答77. 3%(低88. 9%、高65. 7%) ②教職員の分析 ・「岡山型スタンダード」の授業を意識して授業を展開することで、児童が安心して話し合いに参加できるように授業の改善を図った。また、ルーブリックの活用で話し合いの質を高めることに繋がっている。 ・学校司書と連携して委員会を中心に活動を工夫している。図書室の利用回数が増え、読書の機会を増やすことができている。		
	学習習慣の確立	①児童アンケート(7月・12月) ・各学年の目安の時間で宿題や自主学習をしている。 ②タブレットの活用 ・授業でICT(タブレット等)を使って学習している。	80%以上: 4 60%以上: 3 40%以上: 2 40%未満: 1	4	①「家庭学習(宿題や自主学習)をしている。学年プラス10分」 肯定群75. 9% ・宿題はできているが、自主学習の取り組みを推進したい。 ②タブレットの活用について 肯定群100% ・授業では毎日活用している。今後は目的に合わせて機能等を使い分けることを目指したい。		
思いやりのある児童の育成	心の教育の充実	①人権教育の取り組み ・いじめを考える集会、人権を考える取り組み ②児童アンケート(7月・12月) ・道徳の授業では、グループ全体で話し合って、自分の考えを深めている。 ・人が困っている時は、進んで助けるなど、人の役にたつ良い行いをしている。	80%以上: 4 60%以上: 3 40%以上: 2 40%未満: 1	4	①人権教育の取り組み ・6月の集会は、「いじめについて考える標語づくり」を行い、全校集会で発表した。 ・「河内っこ集会」では、6年生が企画して仲良くなるための活動を行った。 ・11月の人権講演会は福田尚久氏を招聘し「自分も相手も大切にコミュニケーション」の講演 ・4年生以上は「まわりとちがっても だいじょうぶ」のテーマで竹内清文氏とのワークショップを実施 ②児童アンケート 「道徳の授業での対話」 肯定群: 96. 3→88% ・発表やICT活用を活用して、自分と他者との考え方の交流を進めたことが、他者理解にもつながっている。 「人の役にたつ」 肯定群: 88.9→94% ・縦割り班活動では、高学年がリーダーとしての責任感や意識が高まっている。	B	児童の良さを伸ばしながら育ててほしい。縦割り活動で異年齢の交流を意識して取り組んでいることを評価していただいたので、引き続き取り組みを充実させたい。 教師が、認めて承認することと必要な場面で叱ることとのバランスや指導の統一を意識することが大切だと再確認した。 通学班の状況では声をかけていただく場面が増えているので、今後の対策が必要。 個別の配慮や支援のいる児童については、地域の協力も得られる。
	集団づくり	①よりよい学校生活と友だちづくりのためのアンケートQ-U(6月・10月)から学級満足度尺度のまとめ「満足群」「非承認群」「侵害認知群」「不満足群」の結果より ②児童アンケート(7月・12月) ・他学年とよく交流している。<縦割り班活動の効果>	80%以上: 4 60%以上: 3 40%以上: 2 40%未満: 1	3	①学級満足度尺度 満足群73. 68%→65. 79% 非承認群21. 05%→26. 32% 侵害認知0. 00%→5. 26% 不満足群5. 26%→2. 63% ・承認感が得られるように友だちのいいところを見つける取り組みや学級で認められる場を設けるなど、関係づくりに取り組んだ。 ・職員研修で、SCとSSWも交えてQUの分析、児童支援のための検討を行った。 ②児童アンケート 「他学年との交流」 肯定群: 88. 9%→90% ・機会をとらえて異年齢交流の場(河内っこ集会、米作り活動、SDGSテーマ別取組)をもつことで、児童の関係性が育っている。高学年が遊びの中でも、積極的に下学年に関わることでできている。		
	教師の指導	①児童アンケート・教職員アンケート(7月・12月) ・先生は、よいことをしたり、頑張ったことをしたらほめてくれる。 ・先生は、悪いことや間違ったことをしたとき、叱ってくれる。	80%以上: 4 60%以上: 3 40%以上: 2 40%未満: 1	4	①児童アンケート 「ほめる」94. 4%→92% 「叱る」97%→98% ・児童が認めてもらいたいと思う気持ちを大切にしながら丁寧に接する必要がある。 ・一人ひとりの意識も違うので、共通理解のもとで適切に関わる必要がある。 ・公共物へのいたずらもあったので、その時を捉えて全体への指導を行っている。 ・集団の規律やルールを守りながら、居心地のいい学級・学校になるように適切な指導と支援を行う。		
たくましい児童の育成	体力の向上	①全国体力・運動習慣等調査(7月・12月) 「運動が好き」児童肯定群の割合 ②児童アンケート(7月・12月) 「体育の授業や遊びを通してすすんで体を動かしている」肯定群の割合	80%以上: 4 60%以上: 3 40%以上: 2 40%未満: 1	4	①全国体力・運動習慣等調査 「運動が好き」 肯定群: 90. 7% ②児童アンケート(7月・12月) 高学年肯定群87. 8%→87. 5% 低学年肯定的回答100%→100% ・運動習慣カードを使って運動習慣づくりを全校で行った。10月の運動習慣の取り組み月間では、計画的に異学年交流の遊びを進めたので、学年を超えて積極的に体を動かすことができた。	A	体力テストの結果から、児童が日頃の生活で体づくりができていることや委員会活動を通して主体的に取り組んでいることを評価していただいた。 メディアコントロールの活動や取り組みの成果が出ていないことについては、改善を図るように取り組みを工夫する必要がある。また、地域や保護者にもわかるような啓発活動に取り組むことをアドバイスいただいた。
	コミュニケーション力、自己有用感	①児童アンケート(7月・12月) 「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」 ②児童アンケート(7月・12月) 「自分から進んで挨拶をしている」 ③児童アンケート(7月・12月) 「自分には、よいところがある」	80%以上: 4 60%以上: 3 40%以上: 2 40%未満: 1	4	①児童アンケート(7月・12月)「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している。」 高学年肯定群81. 8%→87. 5% 低学年肯定群 95. 2→100% ・ペアやグループでの話し合い活動、ICTの活用等で、互いに高め合い協働的に取り組む児童が多い。 ・高学年は地域の方々との活動を通して自主的な活動に取り組んでいる。 ②児童アンケート(7月・12月)「自分から進んで挨拶をしている」 高学年肯定群90. 0→87. 5% 低学年児童95. 2→88. 9% ・登下校時の挨拶を大きな声でしている。相手の顔を見て挨拶をしよう意識している児童が多い。 ③児童アンケート肯定群(7月・12月)「自分にはよいところがある。」 高学年肯定群81. 8→87. 5% 低学年肯定群95. 2→100% ・異年齢交流の機械を通して自分の役割を果たすことで、自己有用感につながっている。		
	よりよい生活習慣	①児童アンケート(7月・12月) 「メディアコントロール週間では、計画を立ててメディアコントロールに取り組んでいる。」 ②保護者アンケート(7月・12月) 「家庭では、テレビ・ゲームの時間について家庭での約束がある。」 ③メディアコントロール週間の取組状況について分析	80%以上: 4 60%以上: 3 40%以上: 2 40%未満: 1	3	①児童アンケート「メディアコントロール週間」(7月・12月) 高学年肯定群63. 6→56. 2% 低学年肯定群100→88. 8% ・意識が下がっているので、取り組み方の改善や工夫が必要 ②保護者アンケート(12月)「メディアコントロール」 肯定群42. 4% ・今後も保護者と児童にメディアコントロールの必要性について発信しながら、対応策や取組を提示する。 ③教職員の分析 ・機会を捉えて保護者に向けてメディアコントロールについての資料を配付することや、メディアの過度な使用による身体的な影響について知らせる掲示物を作成することで、啓発活動を行う。		
開かれた学校の推進	情報公開	①保護者アンケート(7月・12月)「各種たよりなどで子ども様子をよく伝えている。」 ②教職員:「運営協議会で検討された方向性や意見を活かして教育活動に取り組んでいる。」	80%以上: 4 60%以上: 3 40%以上: 2 40%未満: 1	4	①保護者アンケート 肯定群89→85% ・学年だよりの発行数に差があるので、子どもの様子を伝える方法を工夫する。 ・授業参観の希望や要望が高いので来年度は参観日の回数を増やす。 ②教職員の分析:全教職員が学校運営協議会の会議や研修会に出席する機会があり、参画しながら取り組みを進めている。	A	アンケート結果から、概ね満足していることが分かるが、保護者の方々からの意見を大切にしながら、開かれた学校づくりを行っていく必要がある。
	「SDGs・郷育」の充実	①児童アンケート(7月・12月) 「総合的な学習の時間で、社会をよくするためにどうしたらいいかを考えている。」 ②教職員の分析	80%以上: 4 60%以上: 3 40%以上: 2 40%未満: 1	4	①児童アンケート 肯定群85→94% ・自ら課題を立てて取り組む探究活動についても理解を広げ、取組を充実させている。 ②教職員の分析 ・CS研修会では「熟議」の場を持ち、児童と大人が話し合いを行っている。高学年の地域活動では、多くの方に関わってもらうことで地域への愛着を深めることにつながっている。		
組織的対応・連携・協働	こ小中・地域連携・交流	①児童アンケート(7月・12月) 「他学年とよく交流(異年齢遊び、縦割り清掃、河内っこ集会等)している。」 ②教職員の分析	80%以上: 4 60%以上: 3 40%以上: 2 40%未満: 1	4	①児童アンケート「異年齢交流」 肯定群89→87% ・自校だけでなく、こども園や高校生とも地域交流を通して関わる機会に恵まれている。 ②教員の分析 ・こ小のスタートカリキュラムや教育計画を整理しながら効果的な取り組みを推進する。	A	地域連携や高校生との交流が広がり、継続している状況やこども園との交流が進んでいることを評価していただいた。
	効率的な学校運営 働き方改革	①教職員の時間外勤務時間 ②教職員:「業務の効率化や平準化に取り組み、働き方改革を意識している。」	80%以上: 4 60%以上: 3 40%以上: 2 40%未満: 1	4	①「最終退庁時刻と定時退庁日を設定」等、時間を意識した働き方を意識している。 ②教職員の分析 ・R4年度より教育計画を見直して年間行事等を検討している。今後は学級数が少なくなるので、機能的で機動的な組織づくりを目指したい。		

学校関係者評価 総合所見	日頃の子どもたちの様子を近くで見ていただき、よく頑張っていると評価してくださった。今年度は、真庭警察署の「善行少年表彰」、JA岡山の「二宮金次郎表彰」に加えて、6年児童の取り組みが評価されて、「山陽新聞桃太郎賞」を受賞したことを地域の方々も一緒に喜んでくださった。アンケートの結果や説明から課題も共有していただいたが、指導の工夫や改善を図りながら教育活動を推進することへのアドバイスを受けた。今後は、児童数が減少するためコミュニティ・スクールであることを活かして学校経営を行うことについてもご支援、ご支持をいただいた。
-----------------	---

学校関係者評価 を受けての対応	保護者や地域の方々が本校の教育に対して理解を示し、常に協力をしてくださることに感謝をしている。児童のたちの良さを大切にしながら見守り、育んでくださっていることで、子どもたちが安心して生活できているので、学習や運動、様々な活動にチャレンジする意欲に繋がっていると感じている。児童数の減少が進むことが、児童の環境を狭めることにならないように、地域の方々と連携・協働を図りながら「地域とともにある学校づくり」を推進したい。また、これから求められる人材の育成のために、教育課程の改善や工夫を図りたい。
--------------------	--